

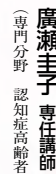


# ルーテル学院だより

No.149  
2022.3.1

http://www.luther.ac.jp/  
ルーテル学院大学・  
日本ルーテル神学校  
〒181-0015  
東京都三鷹市大沢 3-10-20  
TEL:0422-31-4611  
FAX:0422-33-6405  
発行人 石原 基夫

## ゼミ探訪 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ



廣瀬 圭子 専任講師  
(専門分野 認知症高齢者、家族介護者支援、リハビリテーション)

今回は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」について、ご紹介します。

Q ソーシャルワーク実習指導Ⅰとは、どのような科目ですか？

A 社会福祉士の受験に必要な指定科目であり、社会福祉士の現場実習である「ソーシャルワーク実習」とあわせて履修します。実習では、ソーシャルワーカーの知識と技術を身につけたり、実習を通じて気づいた自身の課題について理解と対処することが求められます。本学では「実習指導Ⅰ」の科目がⅠ～Ⅳありますが、Ⅰでは、実習の事前学習の総仕上げとして、実習を通して得られた学びを理論と統合し理解を深めるための基本的な視点を身につけていきます。

Q どのような形式で学ぶのですか？

A 学生の興味関心により、高齢分野、障害分野、児童分野の3つの分野に分かれてのゼミ形式で学びます。各分野の専門的知識を有する教員が指導にあたります。具体的には、利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成など基本的態度からはじまり、分野に特徴的な具体的実践事例や社会的課題をテーマにあげ、関係者との援助関係の形成や支援のあり方などを学びます。

Q ソーシャルワークの支援のあり方とは、どのような内容ですか？

A 利用者個人のニーズは多様ですので、幅広く学ぶ必要があります。例えば、利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントといったチームアプローチの方法などを学びます。また、社会福祉士としての職業倫理や、実習先の施設の就業規則を理解し、組織の一員としての役割と責任を学ぶことも大切になっています。

Q ゼミは、どのような雰囲気ですか？

A 同じ分野に興味を持った学生が集まった少人数制のゼミなので、とても仲が良く和気あいあいとした雰囲気です。講義だけでなく具体的な事例なども用いますので、学生自身が主体となって意見を持ち寄り互いに議論を交わすなど、積極的な学び合いが中心となっています。例えば、私が担当する「高齢分野」では、地域で一人暮らしをする認知症の高齢者の事例を取り上げ、時間的経過に沿ってその時々でどのような支援を行うべきか、またその支援のあり方で、どのような変化がもたらされるのか、成功例だけでなく失敗例からも学びを深めていきます。

Q 最後に、社会福祉士のキャリアラムが変更になったと聞いたのですが？

A 地域共生社会の実現のためソーシャルワークの専門職である社会福祉士の役割への期待が増大していることから、2021年度の入学生（編入生も含む）から教育カリキュラム等が変更されました。したがって、現在の1年生はすでに変更後の教育カリキュラムでの学びが始まっています。それ以前の入学生（2020年度まで）は、今回の変更対象ではなく、以前の教育カリキュラムのままで国家試験にも影響しないので安心してください。

今回の教育カリキュラムで一番大きな変更点は、「ソーシャルワーク実習及び演習」の科目の充実が図られたことです。「ソーシャルワーク実習」では、これまで180時間であった実習時間が延長され240時間となったほか、機能の異なる2カ所以上の実習施設等で実習を実施します。これまで3つの分野の特に関係の深い「地域包括支援センター」「障害者相談支援事業所」「児童養護施設」などを中心に実習を行ってきましたが、今後は近隣の「社会福祉協議会」のご協力を得て、地域連携を意識した30時間の実習を追加することになりました。「ソーシャルワーク演習」も、内容がより社会福祉士に特化した「ソーシャルワーク演習（専門）」が追加されます。

## 2021年度修学アドバイザーから「修学アドバイザー」制度とは、学部生が学習について大学生に相談できる制度です。

臨床心理学専攻修士課程1年 坂本 絵美

臨床心理学専攻修士課程1年 大久保 愛深

臨床心理学専攻修士課程1年 井上 天積

修学アドバイザーは、学生の皆さんの学習をサポートします。相談内容は、大学での勉強の仕方、レポートの書き方、エクセルの使い方、卒業論文のテーマの決め方、大学院入試の勉強方法など多岐に渡ります。普段は定期的な学生の方の個別相談を行っています。時期によってはテーマを絞った講座形式で質疑応答の時間も設けています。

アドバイザーは臨床心理学専攻の大学院生ですが、臨床心理学以外を専攻する学生さんも大歓迎です。まずは困ったことがあればご相談ください。基本は予約制ですが空いていれば飛び込みでもお受けします。

今年度の活動では、履修登録や科目についての相談も受けました。そこでは、単位の計算方法や履修の組み合わせなどについてのアドバイスをしました。入学して初めての履修登録での不安や疑問の解決への手助けをすることができ、嬉しく思いました。

入学後の不安や疑問でどこに相談して良いか分からないことも、相談していただきたいと考えています。場合によっては、適切な対応をしてくれる先を提案することもできると思います。小さなことでも気軽に話してくださいます。

### 在校生インタビューシリーズ 第1回

## 「アルバイト・ボランティア体験を聴く」

——どんなボランティアやアルバイトをしているか教えてください。

梅江俊介：公認心理師を目指していたので、大学入学の2ヶ月前から学童保育でアルバイトを始めました。

長崎太一：私も学童保育でアルバイトをしています。3年の実習に備えて2年生の夏休みに始めました。

関根祐希杏：1年生の授業で卒業生の話を聴いて、私もやりたいと思います。児童館でアルバイトをしています。

松永歩乃佳：高校3年生から、ひとり親家庭の集いでボランティアをしています。お母さんたちの話し合いの間、子どもと工作や料理をします。

梅江：基本は子どもの見守りです。外で遊ぶ時は、ある程度本気を出してドッジボールだと痛くないところに当たるように投げると、「めっちゃ

スピード速い」とか喜んでくれます。関根：スポーツは苦手でしたが、子どもにも教えてもらってだいぶボールも取れるようになりました。成長したなあってちょっと思います(笑)。

——大学の学習と結びつくことは？

梅江：授業で教授が「百点が出たら良い支援者じゃない。自分の支援が本当に良かったか振り返って」という支援の姿勢みたいなことを、1年生の時に1回だけ聴きました。けっこう残っていますね。

長崎：児童養護施設の実習で子どものニーズに合わせてお話を創って語り聞かせられたのは、学童で紙芝居を見せたり本を読んだりした経験が活かされたと思います。

関根：保育士の授業で何歳の子どもは

今年度はZoomと対面を併用して相談を行いました。Zoomでは、内容の共有の困難さや外から活動の様子が見ることができないことなどオンラインでの相談の難しさを感じました。しかしオンラインだからこそ相談することができると感じたり、画面共有ができるなどオンラインの利点も感じました。後期はコロナ禍が少し落ち着いたタイミングで対面の相談を再開しました。やはり対面の方が学部生を身近に感じることができて、良い空間だと感じました。コロナ禍は続きそうですが、来年度も対面で行うことができたいと思います。

こんな感じとか学部生で役立っています。逆に子どもとの関わりを思い出して保育士試験の問題に答えられたので、ありがたいなと思いました。

——在校生や高校生にメッセージがあればお願いします。

長崎：実習だけでなく日常的に関わりと大きな経験値になると思います。松永：ボランティアをして身近なところにもどんな支援や活動があるか知るだけでも見方が変わると思います。自分の地域に関心を持つことも福祉の支援につながると思っています。

関根：実際に経験すると自分に合っているか気付けるので、福祉って決めて入学して少しでも不安があったら関わってみるのが良いと思います。

体験談のフルバージョンは

本学ウェブサイトです！

### 多職種連携、チームアプローチの重要性を実感

臨床心理コース3年 加藤 富美江  
保有資格：保育士

昨年より、新型コロナウイルスの影響によりスケジュール通りの実習が行えなくなり、今年度はどのような形で実習を行っていくのか不安を持っていました。しかし、無事に各領域の実習を行うことができた。実習を受け入れていただいた各施設の皆様、調整にご尽力いただきました先生方に感謝を申し上げます。

私は、司法・犯罪、教育、保健医療の3分野で見学実習をさせていただきました。司法・犯罪の分野では、社会への復帰や生活の自立を目標とし、働きながら生活リズムを整え、ルールと自由のバランスを取りながら、日常生活を過ごしている様子を感じることができました。季節や人との関わりなど、当たり前の生活でおこることを体験しながら過ごせる工夫が感じられました。

## 心理実習報告

### 心理業務の多彩さ、実感

臨床心理コース3年 山口 優衣

私は保健医療、福祉、教育、司法・犯罪の4分野に行き見学実習をさせていただきました。

その中のひとつに3つの事業所を展開している施設がありました。ここでは障がいを持った方や心理的支援を必要としている方が職員とパンやクッキーを作ったり販売したり、企業からの依頼で封入書類・折込み作業、箱詰め、検品をしたり銭湯の掃除なども行っているそうです。利用者が収入を得たり、地域の一員として働くことで、社会復帰の練習や成功体験を感じてもらおうと、意欲的になっている利用者の背中を押していると感じました。心理相談など

ら、日常生活を過ごしている様子を感じることができました。季節や人との関わりなど、当たり前の生活でおこることを体験しながら過ごせる工夫が感じられました。

教育の分野では、様々な理由で不登校の状態が継続している児童・生徒が、子どもの状況に応じたグループに分かれ、グループの基準に沿った教科指導が構成されていました。

1人の子どもに対して2名の担当がいることで、多角的な視点での観察や、学校や家庭との連携が機能していると感じました。また、「この施設に関わった子どもは絶対に離さない」というお話が印象に残りました。このことは、一人ひとり状況や環境は様々であり、支援する側も今までの知識や経験だけでなく、その子に合った支援の仕方考え続け、学び

続ける姿勢が必要だということだと感じました。

保健医療分野では、精神科でのケアを学びました。利用者は、目的や年代、疾患名に関わらずグループ活動を行っていました。場やグループ活動を共有することで、人の中に身を置き過ぎず体験、居場所がある体験、回復モデルを身近に感じる体験など、様々な関係性や力動が生まれることを活用する目的があることを学びました。

見学実習を通じてどの領域でも一つの職種だけで支援を行うことは難しく、それぞれの専門職の視点で捉えたことを共有し、意見を交換しながら支援につなげていくチームアプローチが重要だと実感しました。

を行うだけではなく、このように一緒に働くという支援方法もあるのだと学びました。見学させていただいた施設の利用者が過ごしやすいように考えて作られていて、利用者を一人にしない環境を作り家庭のような温かさがあつたように感じられました。

職員構成は精神保健福祉士(PSW)、介護福祉士、作業療法士、心理師、資格を持っていない人も一緒に働いています。さまざまな職種が働いていますが仕事内容は専門的なこと以外は全員同じだそうでした。同じ仕事内容を行うことで多職種との連携を深めるだけではなく、心理的にも支えあっていると感じました。心理職は多職種と連携しますが、心理専門の仕事しか行わないと思っ



### 学生広報委員(LAC)が受験生のためのオンラインキャンパスツアーを実施



受験生の皆さんにキャンパスの雰囲気を感じていただくよう、LACがオンラインキャンパスツアーを企画実施しました。

参加したLAC

#### Aさん(企画担当)

「大学の雰囲気やキャンパスから届けたい」とその思いからオンラインキャンパスツアーを提案しました。当初はあつけない終わるだろうと思っ

#### Bさん(全体をまとめる役目)

私はトップバッターで説明をしました。とても緊張しましたが、画面を通して初めてルーテルの校舎の中を見



人たちが、どんな大学だろうとワクワクしながら見てもらえたらいいなと思ってやりました。コロナ禍では実際にキャンパス

### 色祭報告「学び」

子ども支援コース3年 近藤 礼奈

皆さんは、なぜ「学園祭」というものがあるのだと思いますか。人それぞれ様々な考えがあると思います。私は、何か人生で大切にしようと思えるようなものを見つけるために学園祭というのがあると思っています。何を

定戦、歌王マ決定戦、ルーテル生の主張、YouTube動画選手権、ひらめき王決定戦、ジェスチャー早当て選手権、ギネスルーテル記録選手権の全7企画です。オンラインのため不安もありましたが、多くの皆さんが参加し盛り上げてくださったのでとても楽しいものになりました。コロナ禍で皆さんの制約

### 訂正とお詫び

ルーテル学院だよりZOOMの2ページに誤りがありました。正しくは、次の通りです。  
「9月29日に前期卒業式が挙行されました。人間福祉心理学科2名、総合人間学研究所社会福祉専攻博士前期課程1名、社会福祉学専攻博士後期課程1名、臨床心理学専攻修士課程5名が卒業しました。」  
関係者をはじめ皆様にお詫び申し上げます。今後、正しい情報をお知らせできるよう努めてまいります。

### 2022年 オープンキャンパス日程

4月24日(日)	8月6日(土)
5月14日(土)	8月21日(日)
6月11日(土)	9月25日(日)
7月10日(日)	12月3日(土)

・各回、模擬講義、入試説明会等を行います。各日程の詳細や開催形式についてはホームページでご確認ください。ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。  
・受験に関する個別相談は随時受け付けています。(平日10時~17時)  
お問い合わせ 電話 0422-32-2949 メール koho@luther.ac.jp



点の少ない後輩ともお話しする機会が増え、充実した時間を過ごすことができました。

を見てもう機会はなかったと思うので、受験生の志望校選択に役立つことができていたらいいなと思います。

#### Yさん(LAC委員長)

オンラインでは大学という空間、ルーテルの特徴や雰囲気がいまぐわっているか心配がありました。しかし、オンラインキャンパスツアーでカメラを持ち歩いてキャンパス内を案内したため、まるでLACのメンバーと参加者の方が一緒に歩き、実際にそこにいるような感じで、ルーテルの学生が普段どのような場で大学生活を送っているのか、どのような学生がいるのかについて知っていただけだったのでいいかと思